



2007-2009年度中期経営計画  
グローバルカンパニーとしてのさらなる飛躍

 SUMITOMO CHEMICAL

社長 米倉 弘昌

2007年3月5日

# 2007～2009年度 中期経営計画

## 本日のアジェンダ

- ・ 現行中期経営計画の総括
  - ・ 基本方針
  - ・ 業績の進捗
- ・ 新中期経営計画の概要
  - ・ 基本方針
  - ・ 基本的な取り組み
  - ・ 業績目標

# 現行中期経営計画の総括

## 基本方針

「高収益体質の早期実現を目指し、事業の選択と集中により、当社ならではの強みを最大限に生かす」

- ・ 「ライフサイエンス分野及び情報電子分野への重点投資」  
大日本住友製薬の設立(医薬品分野)  
機能性フィルムなど液晶関連事業の積極拡大(情報電子分野)
- ・ 「バルク製品における高付加価値化」  
新型ポリエチレンの上市、PEプラントのPPプラントへの転換
- ・ 「グローバル化の推進」  
韓国・台湾・中国での新設備増設(情報電子分野)  
シンガポールでの能力増強(基礎・石油化学分野)

### 「ラービグ計画の意義」

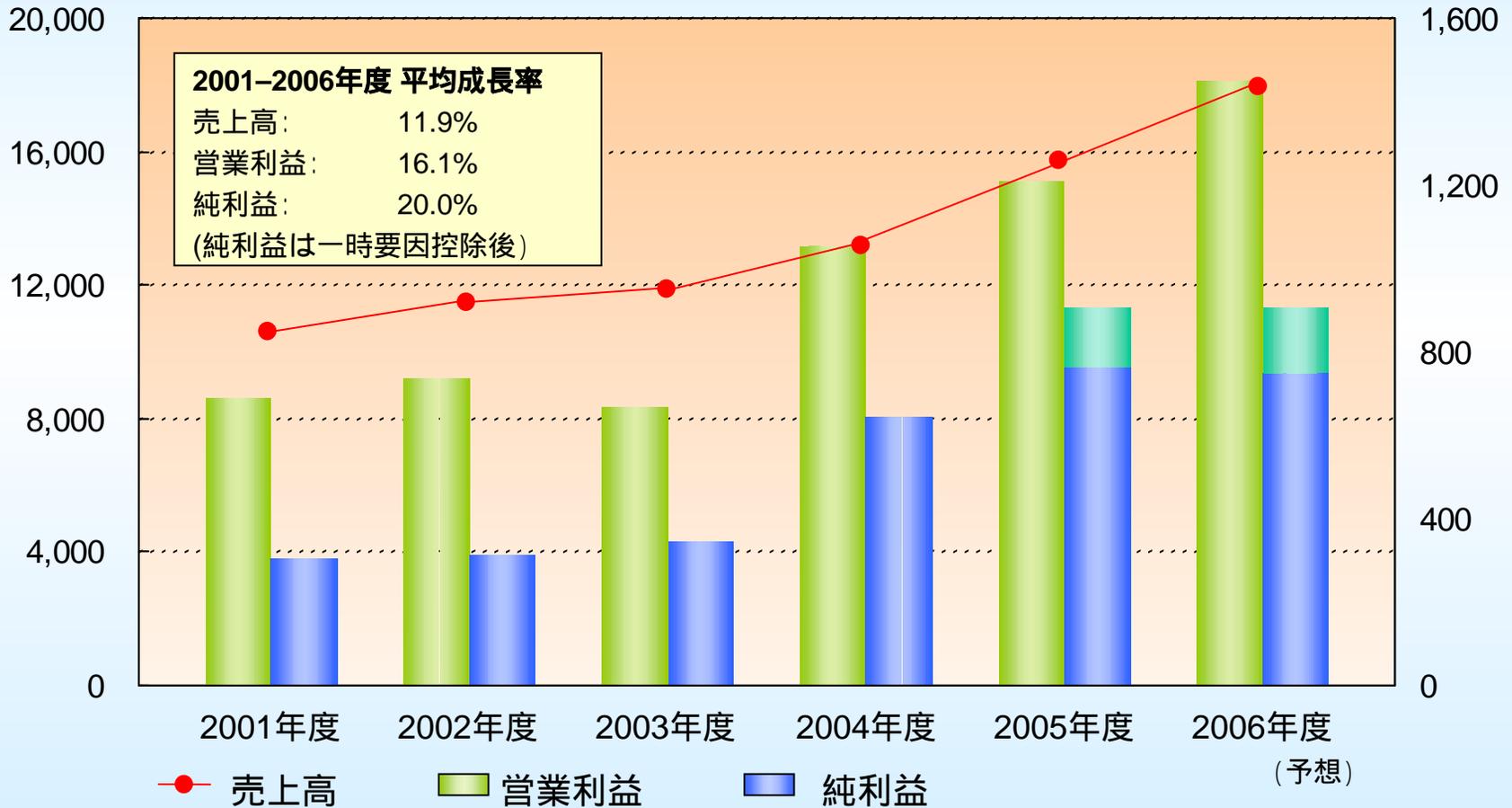
- ・ 競争力を有する原料の安定確保による石油化学事業の基盤の強化と収益性の向上
- ・ 当社グループの一層のグローバル化を加速

# 現行中期経営計画の総括

## 業績推移

(単位:億円)

(単位:億円)



一時的要因による利益項目 (大型有価証券売却等)

# 新中期経営計画の概要

## 基本方針

「グローバルカンパニーとしての飛躍を目指して、株主の期待する事業付加価値を生み出す高収益体質の確立、堅持、持続する成長力の確保」

## 基本的な取り組み

- ・ 「ラービグ計画の完遂」
- ・ 「グローバル経営の充実」
- ・ 「各事業部門の事業付加価値の拡大」
- ・ 「ライフサイエンス、情報電子分野の事業拡大と競争力強化」
- ・ 「さらなる成長への布石」

# 新中期経営計画の概要

## ラービグ計画の完遂

### 予定どおりの完成と安定操業への早期移行

- ・現在の工事の進捗  
昨年3月の起工式以来順調に進捗  
予定どおり2008年央に工事完成の見込み
- ・安定操業へのスムーズな移行  
現地操業スタッフのトレーニングを当社千葉工場や  
シンガポール子会社にて実施
- ・グローバル販売体制の構築  
グローバルな販売ネットワーク構築のため「住化アジア」を設立

# 新中期経営計画の概要

## グローバル経営の推進

### グローバルな事業展開を支える経営基盤の強化

- ・グローバルな経営制度(人事・経理・内部統制など)の整備
- ・情報システムの再構築
- ・コーポレート部門(法務・人事・システム・知的財産・経理・購買・物流など)の事業支援体制の充実
- ・海外の主要拠点へのコーポレートスタッフの配置

# 新中期経営計画の概要

## 各事業部門の事業付加価値の拡大

### 各部門中核事業の収益性の向上

- 基礎化学・・・MMAシンガポール 期計画の垂直立ち上げ  
カプロラクタムのコスト競争力の強化
- 石油化学・・・日本・シンガポール・サウジアラビアでのグローバルな  
最適生産体制の構築  
ポリプロピレンコンパウンド事業の強化などの  
高付加価値化の推進
- 精密化学・・・レゾルシン・医薬化学品の競争力強化
- 情報電子・・・液晶関連材料の収益力強化(拡販・合理化)  
新規材料の開発
- 農業化学・・・成長製品(メチオニン・スミソーヤ・オリセットネットなど)の強化  
住化武田農薬の統合によるさらなるシナジー効果の実現と推進  
(拡販・合理化)
- 医薬品・・・戦略製品への経営資源の集中投入と新製品の販売の早期最大化

# 新中期経営計画の概要

## ライフサイエンス、情報電子分野の事業拡大と競争力強化

ライフサイエンス、情報電子分野において引き続き重点的に経営資源を投入し成長を加速させる

特に情報電子分野においてコスト合理化の徹底や新製品の上市などによって競争力を強化する

# 新中期経営計画の概要

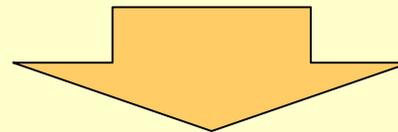
## さらなる成長への布石 - 設備投資

営業キャッシュフロー + 5,300 億円

設備投資 3,700 億円

---

差引 フリーキャッシュフロー + 1,600 億円



将来のさらなる成長への  
戦略投資予備枠 最大 2,000 億円

# 新中期経営計画の概要

## さらなる成長への布石

### －新規分野の研究開発強化

情報電子・エネルギー分野、ライフサイエンス分野に重点配分

情報電子分野：高分子有機EL

エネルギー分野：リチウムイオン電池用部材

ライフサイエンス分野：線維症治療薬等探索テーマの早期ステージアップ

(単位：億円)

研究費の推移



# 新中期経営計画の概要

## 業績目標

2009年度目標	
売上高	2兆4,000億円
経常利益	2,500億円
純利益	1,500億円

(ご参考)

営業利益 2,000億円

持分法損益 650億円

(うちラービグ 500億円)

(前提)

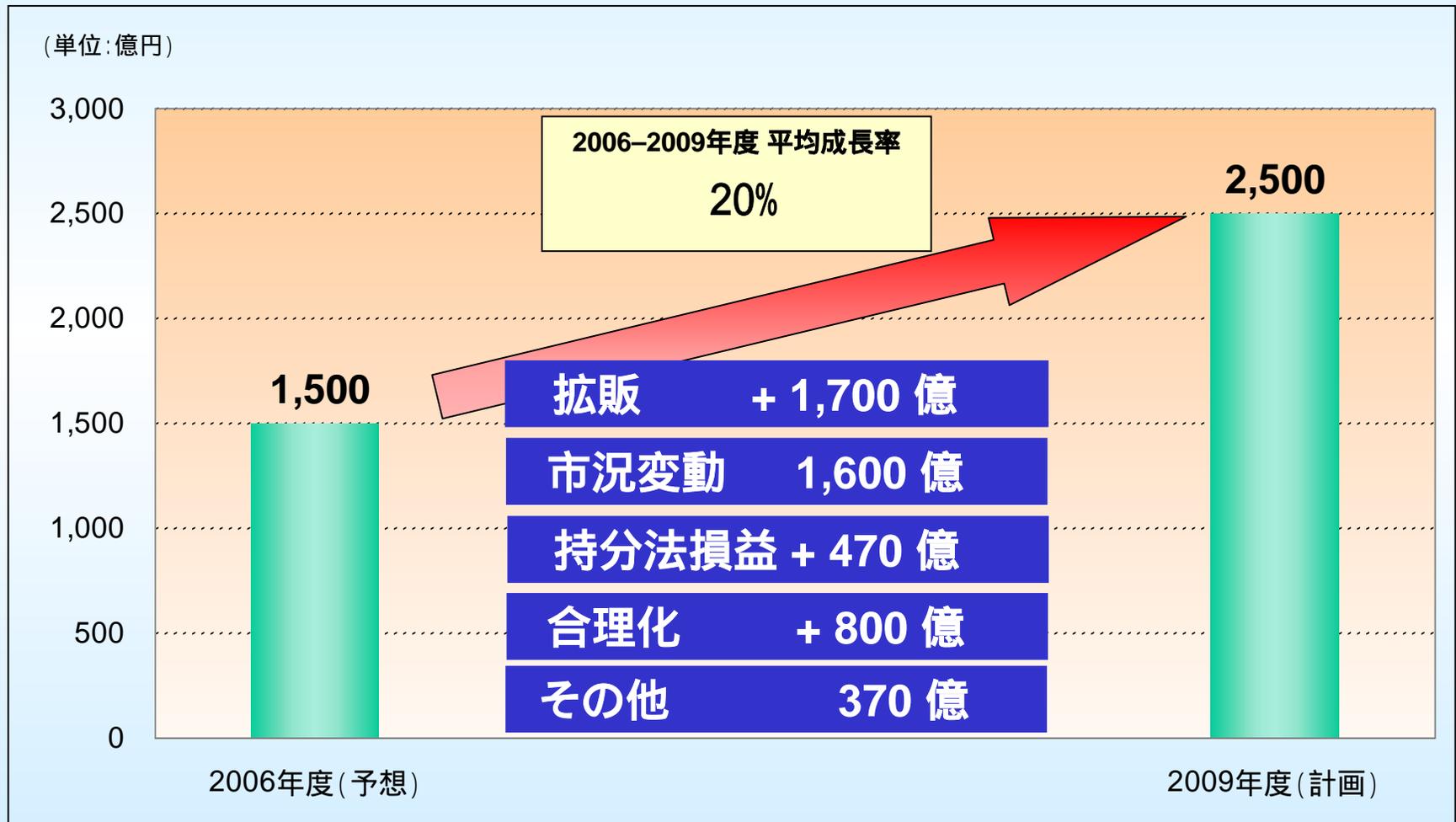
為替 110円/ドル

ナフサ 48,000円/kl

原油(WTI) 55ドル/bbl

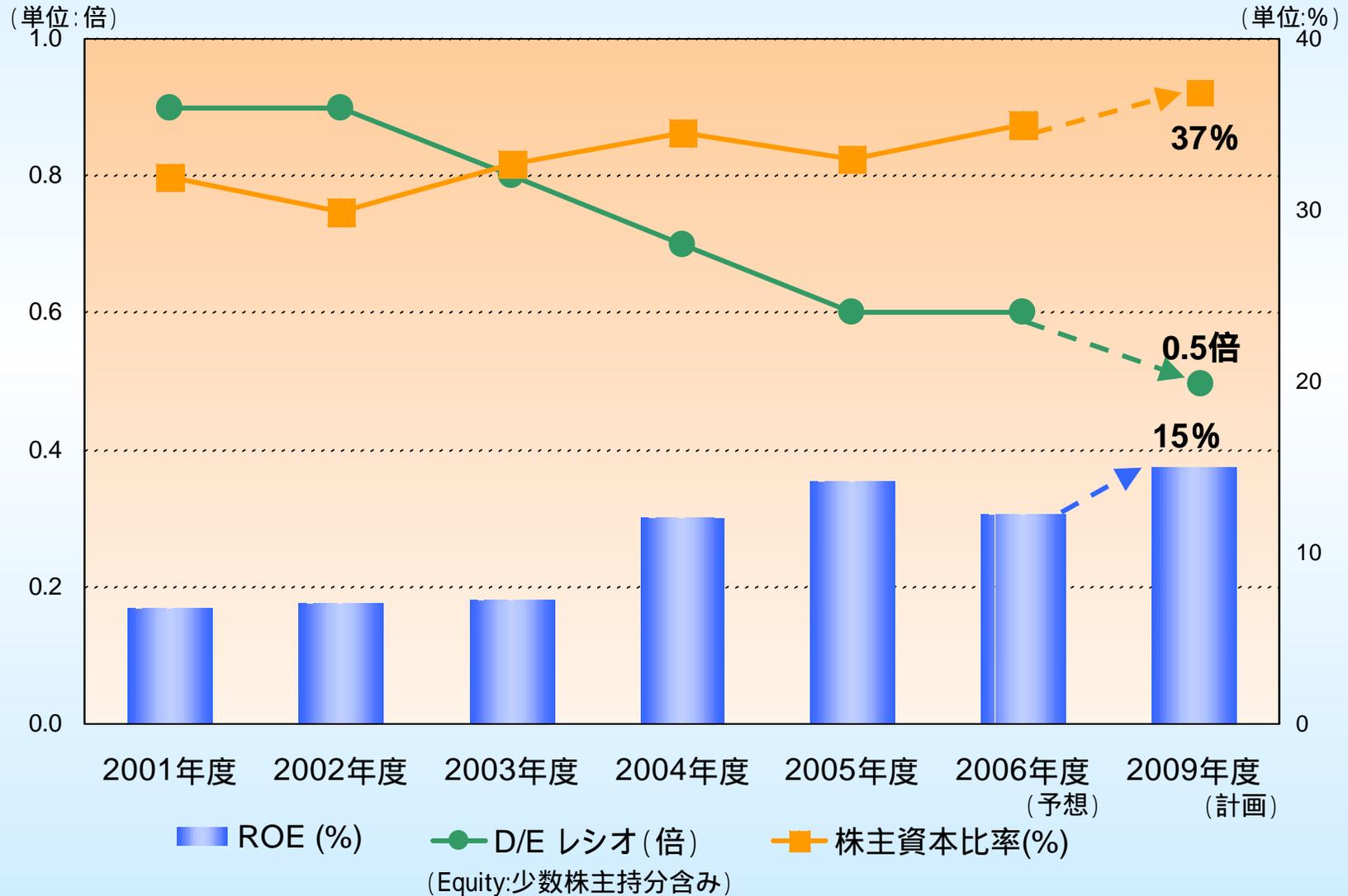
# 新中期経営計画の概要

## 経常利益増減分析



# 新中期経営計画の概要

## 経営指標



# 新中期経営計画の概要

## 配当方針

利益水準の向上にあわせて、投資計画などの資金需要の動向にも配慮しながら、段階的な増額を検討

# 結び

---

グローバルカンパニーとしてのさらなる飛躍



---

(ご参考資料)

# 部門別売上高推移

(単位:億円)

売上高	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度 (予想)	2009年度 (計画)
基礎化学部門	1,738	1,932	1,991	2,258	2,524	3,000	3,200
石油化学部門	3,386	3,716	3,624	4,126	4,861	5,400	8,600
精密化学部門	998	1,035	806	841	790	900	1,100
情報電子化学部門	598	825	1,235	1,748	2,292	2,750	4,700
農業化学部門	1,349	1,581	1,671	1,716	1,862	1,950	2,300
医薬品部門	1,740	1,684	1,666	1,707	2,331	2,350	2,650
本社他	375	337	592	567	906	1,500	1,450
全社合計	10,184	11,111	11,854	12,963	15,566	17,850	24,000

# 部門別營業利益推移

(單位:億円)

營業利益	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度 (予想)	2009年度 (計画)
基礎化学部門	30	53	26	52	100	150	240
石油化学部門	-4	49	-16	150	179	170	250
精密化学部門	80	92	88	115	98	140	150
情報電子化学部門	-63	5	143	187	217	170	400
農業化学部門	179	166	107	148	166	240	350
医薬品部門	420	323	278	344	383	510	510
本社他	46	48	40	56	65	70	100
全社合計	688	735	666	1,052	1,208	1,450	2,000

### 注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与える重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。